

令和8年度 高校2年 理系進学コース シラバス

□教科	芸術（音楽Ⅰ）			
□授業時数	2時間／週			
□教材	MOUSA1（教育芸術社），Music Note（啓隆社）			
□学習到達目標	芸術の幅広い活動を通して，生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，芸術の諸能力を伸ばし，芸術文化についての理解を深め，豊かな情操を養うことができるようにする。			
□成績評価基準	各単元ごとの実技テスト，平常点（授業態度や課題提出状況など）			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業計画について ・歌唱 校歌 ・歌唱 「オーソレミオ」（イタリア語） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業について知る。（内容，テストや提出物について） ・校歌を3番まで歌えるようにする。 ・日本語や外国語に関心を持ち，独唱曲のよさに触れる。 ・カンツォーネの魅力に触れる。 	実技テスト
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ コンコーネNo.50 コールユープンゲンNo36 聴音 ・器楽 リコーダー 「パッヘルベルのカノン」4重奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱の基礎的能力を高める。 ・正しい音程を繰り返し練習し，習得する。 ・簡単なリズムやメロディーを聴き取り，正しく五線に書く。 ・旋律を聴き取り，読譜などの練習を通して，楽曲を豊かに表現するための技能を身につける。 ・音量やアーティキュレーションなどに留意しながら，調和のとれたアンサンブルをする。 ・互いの音を聴き合い，各パートの役割を意識しながら演奏する。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽 リコーダー 「パッヘルベルのカノン」4重奏 ・ミュージカル鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げとして，グループで練習する。 ・お互いのパートを聴き合いながら演奏する。 ・ミュージカルの歴史について知る。 ・ミュージカルの魅力に触れる。 	実技テスト 感想提出
	7	前月の続き	前月の続き	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 「栄光のかけはし」二重唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの音を聴き合い，各パートの役割を意識品がら歌う。 ・曲にあった発声で歌う。 ・曲の背景を知る。 ・美しいハーモニーを目指して歌う。 ・音楽記号を理解して表現に生かす。 	実技テスト

令和8年度 高校2年 理系進学コース シラバス

□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	10	・自由課題	<ul style="list-style-type: none"> ・選曲自由 ・主体的、積極的に取り組む。 ・楽器の組み合わせや、演奏方法など創意工夫して練習する。 ・自分なりのイメージを持って演奏する。 	実技テスト (演奏会形式)
	11	・自由課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会に向けて、技術向上と表現を工夫する。 	感想提出
	12	・自由課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会 	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 「HEIWAの鐘」三重唱 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲にふさわしい発声の仕方表現する。 ・パート間のバランスなどに注意して歌う。 ・ブレスコントロールをしながら歌う。 ・歌詞の意味を理解しながら歌う。 	実技テスト
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽 「クラッピング・カルテット」 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリズムを理解し、表現する。 ・ハンドパーカッションによる強弱を工夫し、演奏表現の幅を広げる。 ・リズム創作とボディーパーカッション 	実技テスト
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラッピング発表 	

令和8年度 高校2年 理系進学コース シラバス

□教科	芸術（美術Ⅰ）			
□授業時数	2時間／週			
□教材	高校生の美術1（日本文教出版），ポスターカラーセットその他			
□学習到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を持つとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることが出来るようにする。			
□成績評価基準	年間を通じた課題提出作品の平均、平常点（授業態度、忘れ物の有無、課題提出状況など）の総合評価			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・「静物デッサン」 	<p>一年間の予定、必要な用具などについて理解する。</p> <p>モチーフはハーフブロックとハーフレンガ、美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。</p>	<p>A3画用紙</p> <p>鉛筆</p> <p>モチーフ</p> <p>参考作品提示</p> <p>作品提出</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン基礎 	<p>①ポスターカラーによる着彩の基礎、「溝引き」を習得する。</p> <p>②ポスターカラーにて「明度段階」および「色相環」を作成する。</p> <p>ポスターカラーの扱いや着彩時の注意点を習得する。</p> <p>色彩についての基礎知識を理解する。</p>	<p>ケント紙</p> <p>ポスターカラー</p> <p>定規</p> <p>溝引き棒</p> <p>作品提出</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「名作模写」 	<p>『真珠の耳飾の少女』フェルメール</p> <p>グリッド線のある見本①を見て、鉛筆で下書きする。</p> <p>次にカラーの見本②を参考に、ポスターカラーで着彩する。</p>	<p>A3ワトソン紙</p> <p>鉛筆</p> <p>ポスターカラー</p> <p>見本①(グリッド印刷済み、白黒)</p> <p>見本②(カラー)</p> <p>作品提出</p>
	7	評価	<ul style="list-style-type: none"> ①静物デッサン ②色相環 ③模写 	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「自画像デッサン」 ・「木版画（自画像）」 	<p>鉛筆による自画像のデッサン。</p> <p>鏡を良く見て描く方向を決め、自分の内面をも見つめながら表現する。</p> <p>自画像デッサンを下絵にして、次に木版画で表現する。</p> <p>木版画は素材感が強く、左右が反転したり、白と黒以外の中間調が表現できないなど、デッサンとはまったく異なる表現形式である。</p>	<p>A3画用紙・鉛筆</p> <p>鏡</p> <p>参考作品提示</p> <p>作品提出</p> <p>シナベニヤ</p> <p>彫刻刀</p> <p>トレーシングペーパー</p> <p>カーボン紙</p> <p>墨汁・面相筆</p>

令和8年度 高校2年 理系進学コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・「木版画（自画像）」 <p style="text-align: center;">継続学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一点透視図法を使った室内のデザイン」 	<p>「理想の自分の部屋」をデザインする。 一点透視図法を用いて室内の様子を表現する。</p>	<p>インク ローラー パレン ウエス 鳥の子紙 参考作品提示 作品提出</p> <p>グリッド線印刷済みの A3ケント紙 鉛筆</p>
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・「静物デッサン」 <p style="text-align: center;">評価</p>	<p>モチーフは市松模様の台紙と透明なガラスのコップ。 美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。</p> <p>①自画像デッサン</p>	<p>ポスターカラー 参考作品提示 作品提出</p> <p>A3画用紙 鉛筆 参考作品提示 作品提出</p>
	12		<p>②木版画 ③室内デザイン ④静物デッサン</p>	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「カッティングによる平面構成」 	<p>色画用紙を切り貼りして平面構成を行う。条件は次の通り。 ・台紙(A3ケントボード)の中央に画面を作成・構成する。 ・8センチ×8センチの正方形を9枚並べる形で構成する。</p> <p>条件を満たせば、どのような構成でも基本的には可とする。 ただし美術作品としての平面構成である以上美しさを追求する。</p>	<p>色画用紙 (20色以上) A3ケントボード ステンレス定規 カッター カッティングマット スティックのり 木工用ボンド</p> <p>参考作品提示</p>
	2	<p style="text-align: center;">継続学習</p>		<p>作品提出</p>
	3	<p style="text-align: center;">評価</p>	<p>①平面構成</p>	

令和8年度 高校2年 理系進学コース シラバス

□教科	芸術（書道Ⅰ）			
□授業時数	2時間/週			
□教材	書Ⅰ（光村図書）			
□学習到達目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を持てるようにする。加えて感性と書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばせるようにする。書の伝統と文化についての理解を深められるようにする。			
□成績評価基準	年間を通じた課題作品、平常点(授業への取り組み・制作態度、忘れ物の状況、課題提出状況等)などによる総合評価			
□授業計画	月	単元・項目	内 容	備 考
	4	○ ガイダンス ○ 四書体の確認（氏名） 1 楷書の学習	○ 年間の授業展開について ○ 楷・行・隸・篆書の四書体による氏名の確認 ○ 楷書の特徴・用筆と運筆	
	5	2 楷書の学習	○ 書体変化の概念を理解し、篆書の位置づけ、基本的な用筆・運筆を知り、楷書への展開をする	プリント
	6	3 漢字仮名交じりの書の学習 「短冊」	○ 漢字と仮名の調和、形式に応じた全体構成の方法について理解する ○ 仮名の連綿による表現 ○ 自作の俳句・短歌等を短冊にバランス良くまとめる	確認テスト
	7			
	9	○ 展覧会作品	○ 各自の多様な表現で展覧会作品を制作 鷗友書道展への作品出品（表彰は3学期）	

令和8年度 高校2年 理系進学コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	4 篆刻の学習	○ 書道 I から継続し，氏名を篆刻で制作する	
	11	同上	同上	確認テスト
	12			
	1	5 細字の学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単純明快な運筆を学習する ○ 小筆の運筆・執筆法 ○ 集中力の養成 	プリント
	2	6 創作	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各自が選択した題材を1年間で学習した執筆法により色紙を完成させる ○ 倣書から創作へ 	プリント 確認テスト
	3			